様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月 １９ 日現在

機関番号：２３８０３
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ２２０３９

研究課題名（和文）南スーダン難民による「家」の創造に関する人類学的研究

研究課題名（英文）Anthropological Study on Homemaking of South Sudanese Refugees

研究代表者
村橋　勲（Murahashi, Isao）

静岡県立大学・国際関係学部・助教

研究者番号：００８８２３３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：3年間の研究期間全体をとおして、新型コロナウイルス感染拡大の影響が原因でフィールドワークが実施できなかったこともあり、データ収集に関しては予定より遅れた。しかし、南スーダンのロピットの人々とのオンライン上での情報交換を断続的に行うことで、研究は一定の進捗がみられた。
成果発表に関しては、これまでのウガンダの難民居住地で実施してきた調査成果の公開を含め、単著1冊、編著2冊の刊行、英文・和文含めて9点の雑誌論文及び分担執筆論文の出版、学会と研究会含めて7回の研究発表を行うことができ、十分な成果をあげた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
研究成果は、モノのエージェンシーに着目することで、従来の移民・難民研究において注目されてこなかった物質的なモノと移動民との相互作用について新たな視点を提供した点において学術的意義がある。また、2021年に出版した単著『南スーダンの独立・内戦・難民』については、2013年の南スーダンの内戦下で発生した大規模な難民流出に対して、南スーダンや人道支援をめぐる最新の情報や動きを整理するだけでなく、過去の難民移動との連続性や、難民の社会生活について詳細に記述した点が高く評価されており、アフリカの難民に関する数少ない民族誌のひとつとして学術的に貢献した。

研究成果の概要（英文）：In general, the research progresses behind schedule because the fieldwork in Kenya was not realised due to the pandemic of Covid-19. However, I have kept contact with the informants from the Lopit of South Sudan, so that I can collect neccesary information through online tools.
As for the achivements, I published a single-author book, edited and wrote two books, contributed several reports, conference papers and articles to journals and magazines. In addition, I made an oral presentations at academic meetings.

研究分野：文化人類学

キーワード：家（home）　物質性（materiality）　年齢世代交代　難民キャンプ　南スーダン　ロピット

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究の学術的背景としては、文化を身体やモノと切り結ぶ関係から理解しようとする文化人類学における関心がある。そこでは、身体は、文化の主体、あるいは経験の間主観的な「地」として注目されると同時に、モノが特定の社会文化的活動を可能にし、特定の意味や記憶、固有の感情を呼びさます働きがあると捉えられるようになっている。したがって、神話や日々の出来事を歌やダンスのなかで物語るといった南スーダンのロピット人が行うパフォーマティブな文化的実践は、たんに集合的な記憶を伝達するという機能を果たすだけでなく、歌い、踊るという行為それ自体が身体化された社会文化的（再）生産であると考えられる。以上の視点に基づき、難民が、文化的実践をとおして切り離された故郷や過去との空間的かつ時間的なつながりを感覚的に回復、維持するうえで、ヒトが身体や物質と切り結ぶ関係を考察する。

２．研究の目的

本研究の目的は、内戦や紛争という社会的状況において離散した地域共同体の成員が新たな社会文化的構成を作り出す動態を「家」の創造プロセスと捉え、1．個人と共同体が帰属意識を新たに創出、確認する過程において、身体やモノがどのように行為主体的に働きかけるか、2．パフォーマティブな文化的実践において、変化する社会関係、社会的役割、慣習的規範、道徳的価値がいかなるやり方で反映されるか、を探求することである。

３．研究の方法

本研究では、ケニアのカクマ難民キャンプに暮らすロピット（Lopit）の人々へのフィールドワークをとおして、彼らが歌い、踊り、神話を物語るというパフォーマティブな文化的実践とそのプロセスを参与観察型の調査から明らかにする。

具体的な方法としては、ロピット難民への聞き取り調査と参与観察をとおして、来客の歓迎、葬式、祝い事などさまざまな出来事において行う身体的な慣習である歌とダンスが、どのような脈絡で行われるかについて、活動の背景、意図、意義、参加者のメンバー構成などから明らかにする。さらに、故郷と難民キャンプを比較して、歌やダンスで使用されるモノや参加者の役割、構成員の社会関係などがどのように変化しているかについて微細に明らかにする。これによって、離散した人々が、自らが何者であるかを確認する複雑な社会文化的プロセスを明らかにする。

ロピットの人々は、難民キャンプでの生活が長引くなかで、故郷で共有されてきた規範、道徳、歴史の喪失に対する危機感を抱いている。こうした危機感の表出は、2016 年にロピットの歌や神話を文字で書き残すことを目的とした地域社会組織（Community Based Organization: CBO）が組織したことに示されている。フィールドワークでは、この CBO の活動を調査することで、難民キャンプにおける共同性とネットワークの創出のあり方について調査する。

４．研究成果

(1) 南スーダン、ロピット難民の CBO 活動に関する報告の出版

本課題に関連する直接的な研究成果として、以下の本があげられる（栗本英世、村橋勲、伊東未来、中川理（編）『かかわりあいの人類学』大阪大学出版会、2022 年）。本書の中で、南スーダンのロピットの人々の神話・民話・歌を採録するという筆者の研究活動を事例に調査者とロピットの人々との関係の変化を考察した。調査は、ケニアの難民キャンプで実施したが、ここでは、「文化の喪失」を集団の危機と捉えるロピット人が少なくない。こうした状況で彼らの記憶を収集するという行為は、故郷の共同体への帰属を希求する人々の願望を刺激し、人々に好意的に受け止められる傾向にあるが、一方で、誰が集団を代表して彼らの知や記憶を語るのかという問題をめぐる軋轢が生まれることもあることを指摘した。

また、本研究に関連して、「難民による〈住まい〉の創造――南スーダン、ロピット難民のモノと身体の文化」という研究テーマが、**第 8 回若手難民研究者奨励賞（2020 年）**を受賞した。受賞の研究成果は、研究概要「難民キャンプにおける家郷の創造　南スーダン、ロピット難民の儀礼実践と物質文化」として難民研究ジャーナル 11 号（172-174 頁）に掲載された。

(2) 南スーダンの独立・内戦と難民の生活に関する単著の刊行

2013 年から 2018 年にかけて、南スーダンとウガンダで実施したフィールドワークをもとに、南スーダンの人道危機、ウガンダにおける難民支援、南スーダン難民の生活実践について記述した民族誌を出版した（単著、村橋勲「南スーダンの独立・内戦・難民――希望と絶望のあいだ」昭和堂 2021 年）。本書は、**第 11 回地域研究コンソーシアム登竜賞（2021 年）**及び**第 28 回日本ナイル・エチオピア学会高島賞（2022 年）**を受賞した

序章に続く 1~3 章では、南スーダン-ウガンダ国境地帯における歴史的な住民の移動、CPA 締結から南スーダン内戦へ至る政治的文脈などをまとめた。4,5 章では、人道支援の枠組みが「管理とケア」から「自立とレジリエンス」へ移行するなか、被支援者の生活実践にどのような影響が及ぼされるかを考察した。6,7 章では、難民と難民受け入れ社会の人々との間の社会経済的なつながりと、住民間に生まれる差異に注目して難民の経済生活の再構築について論じた。終章で

は、1)紛争下におけるヒトの移動が新たな生活機会を希求する自発的な越境という側面もあること、2)難民と難民受け入れ社会をつなぐ新たな社会経済的つながりは、地域社会に一定の経済効果をもたらす一方、新たな経済格差が生じていることを指摘した。

(3) 人の移動と地域社会のつながりに関する報告、レポートの刊行

紛争によってウガンダに避難した人々の経験と、彼らを受け入れるウガンダの地域社会の形成に関する論文と報告書の出版を行った。主な著作を以下の通りである。このなかで、19 世紀半ば以降に始まる異文化（アラブ世界やヨーロッパ人）との接触を通して、どのように南スーダンの人々が他者を理解し、自分たちの外の世界に向けた移動を経験してきたか、そして、20 世紀半ば以降の紛争の動態によって、人々が強制的に移動させられ、ウガンダで異なる慣習を経験してきたか、また、ウガンダの難民受け入れ社会がどのような形で形成され、社会関係が生み出されてきたのかを明らかにした。

〈関連する主な業績〉

村橋勲「紛争による人の移動が作り出した地域社会におけるつながりと差異――ウガンダの難民居住地における難民と移民のミクロヒストリー」王柳蘭・山田孝子（編）『ミクロヒストリーから読む越境の動態』国際書院、2023 年、pp.131-161.

Isao, Murahashi 2021. ‘Conflict-induced migration and local development: The socio-economic dynamics of a refugee hosting area in Uganda.’ ASC-TUFS Working Papers 1: 253-272.

Isao, Murahashi 2022. ‘Refugee Mobility and Uncertain Lives: Challenges and Agency of South Sudanese Refugees in Uganda.’ ASC-TUFS Working Papers 2:83-102.

村橋勲、2022 年「ウガンダの難民居住地における南スーダン人の食習慣―食材と嗜好の変化」『農耕の技術と文化』30: 133-158.

村橋勲・仲尾周一郎「留学という旅――日本の南スーダン人」季刊民族学、2021 年、pp.34-41.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　4件／うち国際共著　1件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 村橋勲	４．巻 129
２．論文標題 アフリカにおける食料問題とそのゆくえ	５．発行年 2022年
３．雑誌名 VESTA	６．最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 村橋勲	４．巻 11
２．論文標題 難民キャンプにおける家郷の創造―南スーダン、ロピット難民の儀礼実践と物質文化	５．発行年 2022年
３．雑誌名 難民研究ジャーナル	６．最初と最後の頁 172-174
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Isao Murahashi	４．巻 2
２．論文標題 Refugee Mobility and Uncertain Lives: Challenges and Agency of South Sudanese Refugees in Uganda	５．発行年 2022年
３．雑誌名 ASC-TUFS Working Papers	６．最初と最後の頁 83-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.51062/ascwp.2.0_83	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 村橋勲	４．巻 30
２．論文標題 ウガンダの難民居住地における南スーダン人の食習慣―食材と嗜好の変化	５．発行年 2022年
３．雑誌名 農耕の技術と文化	６．最初と最後の頁 133-158
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 Isao, Murahashi	4．巻 1
2．論文標題 Conflict-induced migration and local development: The socio-economic dynamics of a refugee-hosting area in Uganda	5．発行年 2021年
3．雑誌名 ASC-TUFS Working Papers	6．最初と最後の頁 253-272
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

1．著者名 Isao, Murahashi	4．巻 6
2．論文標題 How refugees imagine and strive toward their future: The aspirations and hardships of South Sudanese refugees in Uganda	5．発行年 2021年
3．雑誌名 Working paper series of JSPS Core- to-Core Program	6．最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

1．著者名 村橋勲	4．巻 98
2．論文標題 書評：飛内悠子著，『未来に帰る――内戦後の〈スーダン〉を生きるクク人の移住と故郷―	5．発行年 2020年
3．雑誌名 アフリカ研究	6．最初と最後の頁 68-71
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 村橋勲	4．巻 118
2．論文標題 インジェラの味はどんな味？	5．発行年 2020年
3．雑誌名 VESTA	6．最初と最後の頁 17-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 村橋勲・仲尾周一郎	４．巻 176
２．論文標題 留学という旅――日本の南スーダン人	５．発行年 2021年
３．雑誌名 季刊民族学	６．最初と最後の頁 34-41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　2件／うち国際学会　1件）

１．発表者名 村橋勲
２．発表標題 境界の（イ）モビリティーー紛争下における越境と難民居住地の事例から
３．学会等名 白山人類学研究会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 村橋勲
２．発表標題 難民における食の動態と対処方法：ウガンダ中西部の南スーダン難民の事例
３．学会等名 日本アフリカ学会第58回学術大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 村橋勲
２．発表標題 合評会：南スーダンの独立・内戦・難民――希望と絶望のあいだ
３．学会等名 第59回ASCセミナー/日本アフリカ学会関東支部2021年度第４回例会/FENICS
４．発表年 2021年

１．発表者名 Isao Murahashi
２．発表標題 Refugee Mobility and Uncertain Lives: Challenges and Agency of South Sudanese Refugees in Uganda
３．学会等名 ASC-TUFS 5th Anniversary International Symposium（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 村橋勲
２．発表標題 移動するホーム――故郷と難民キャンプにおける場所のつながり
３．学会等名 2021年度みんぱく若手研究者奨励セミナー
４．発表年 2021年

１．発表者名 村橋勲
２．発表標題 南スーダン――R-ARCSS後の情勢と北東アフリカ諸国との関係
３．学会等名 上智大学アジア文化研究所アフリカ研究セミナー／アフリカ学会関東支部2021年度第15回例会
４．発表年 2021年

１．発表者名 村橋勲
２．発表標題 ウガンダモデルを再考する－南スーダン難民受け入れの現状と課題
３．学会等名 日本アフリカ学会関東支部2020年度第5回例会
４．発表年 2020年

〔図書〕　計5件

1．著者名 村橋　勲	4．発行年 2023年
2．出版社 国際書院	5．総ページ数 341
3．書名 ミクロヒストリーから読む越境の動態	

1．著者名 村橋　勲	4．発行年 2023年
2．出版社 佐伯コミュニケーションズ	5．総ページ数 217
3．書名 人道と開発をつなぐ――アフリカにおける新しい難民支援のかたち	

1．著者名 栗本 英世、村橋 勲、伊東 未来、中川 理、加藤 敦典、賈玉龍、李俊遠、森田 良成、椿原 敦子、岡野 英之、上田 達、木村 自、早川 真悠、藤井 真一、竹村 嘉晃	4．発行年 2022年
2．出版社 大阪大学出版会	5．総ページ数 312
3．書名 かかわりあいの人類学	

1．著者名 藤井真一、川口博子、村橋勲編	4．発行年 2022年
2．出版社 能登印刷	5．総ページ数 514
3．書名 サバンナの彼方	

１．著者名 村橋　勲	４．発行年 2021年
２．出版社 昭和堂	５．総ページ数 320
３．書名 南スーダンの独立・内戦・難民――希望と絶望のあいだ	

〔産業財産権〕

〔その他〕

https://db.u-shizuoka-ken.ac.jp/show/i-murahashiisao.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関